



NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.38

2021年9月24日
理事長：橋本成隆
〒665-0022
宝塚市野上1丁目1-8
(Tel: 0797-69-8800)
<https://rept.or.jp>

～ オンライン勉強会 ～

「太陽光パネル無償設置 PPA モデルのご紹介」

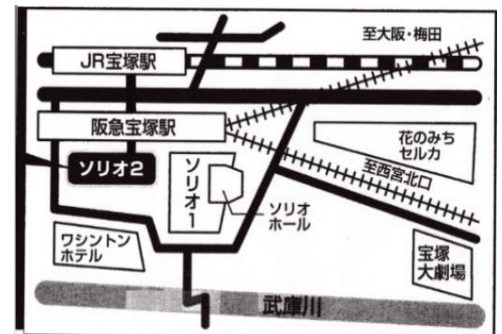
と き：2021年10月17日（日） 14:00～16:00

（開場）オンライン、現地参加 共に 13:45～開場

オンラインセミナーの申し込みは REPT ホームページの「お知らせ」からお申込みください。（ <https://rept.or.jp/> ）

ところ：下記会場にて現地参加も可能です（先着 20 名まで）。宝塚市立男女共同参画センター学習交流室 3, 4（阪急・JR宝塚下車 ソリオ2 4階）

但し、新型コロナウイルス感染症の状況等により変更や中止する場合があります。変更や中止の場合は REPT のホームページでお知らせします。



講師：西田 光彦 さん

（REPT 副理事長、株式会社テルッツォ代表）

参加費：無料、 予約：不要、 当日参加歓迎、
後援：宝塚市

◆ 太陽パネル無償設置 PPA モデルとは？ ◆

PPA とは、聞き慣れない言葉ですが「Power Purchase Agreement(電力販売契約)」の略で、施設所有者が提供する敷地や屋根などのスペースに、太陽光発電設備の所有・管理を行う会社（PPA 事業者）が太陽光発電システムを設置し、発電された電力をその施設の電力使用者へ有償提供する仕組みです。施設所有者、PPA 事業者、電力使用者それぞれにメリットがあり、再生可能エネルギーの導入促進に向けた切り札として期待されています。

2012 年に再生可能エネルギーを普及促進するためにスタートした電力の固定買取制度ですが、その買取価格は年々下がってきており、それと同時に制度自体も一部をのぞいて大きく改訂されて

います。例えば出力が 50kw 未満の太陽光発電設備は当初（2012 年）売電単価は 40 円/kWh（税別）でしたが、本年度 2021 年からは 12 円/kWh となり、加えて非常用コンセントの設置や地域活用要件が義務付けられています。大きく下がった買取価格ですが、それと同時に太陽光発電設備自体の価格も、機器だけですと 2012 年の 1/3 程度まで下がってきています。当初 FIT の目的でもあった再生可能エネルギーの普及と同時に設備の価格を下げる事が達成できた事になります。

一般的な電気料金は ¥20～¥25/kWh です。今では創った電気は売るよりも使ったほうがトクということになります。太陽光発電で作った電気は自家消費し、足りない分だけ電力会社から購入すれば、電気代が安くなるだけでなく「温室効果ガスの削減」に大きく寄与できます。

無償設置と聞くとなんやら怪しい気がする方も多くいると思いますが、仕組みを理解いただくにご納得いただけるのではないのでしょうか？

その仕組みを簡単に説明すると、今まで払っていた電気代を電力会社に支払うのではなく、太陽光発電設備を設置し持ち主（PPA 事業者）となっている会社に電気代を支払い、その PPA 事業者は設置した費用を電気代で回収するという仕組みです。

PPA と聞くとなにやら難しい仕組みと思いがちですがユーザーにとっては電気代を支払う会社が変わるだけで、無償で再生可能エネルギーを使うことができるという優れた仕組みです。

先日、2014 年度にスタートした「宝塚エネルギー 2050 ビジョン」が見直しされました。

新たなビジョンは昨年政府が発表した「2050 年温暖化効果ガス排出実質ゼロ」の実現を目指したうえで、2030 年度の目標や取り組みを策定しています。家庭部門の再エネ自給率拡大の目標の中「太陽光発電・蓄電池セットで 1,000 件（新規）導入」と明記されています。

今回、ご紹介する「太陽光発電」と「蓄電池」を無償で設置するという PPA モデルは、その具体的な取り組みの一つとして期待しています。

今回の取り組みは、私たちが今まで行ってきた市民発電所とは仕組みが少し違いますが、宝塚で PPA 事業が広まり市内の事業者が担うことによってエネルギーと経済が地域内で循環することは私たちが目指す姿です。「非営利型株式会社 宝塚すみれ発電」も参画を考えています。

新たなカタチ（PPA）の市民発電所を一緒に作っていきませんか？ （西田 光彦）

◆ 2021 年 7 月 27 日 宝塚市がゼロカーボンシティを表明 ◆

宝塚市は、令和 3 年（2021 年）7 月 27 日の 7 月市長記者会見において、2050 年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことを表明しました。

昨年、政府が「2050 年温暖化効果ガス排出実質ゼロ」を宣言していますので、市として取り組むのは当然といえば当然なのですが、政府の突然の発表に県をはじめとして、何から取り組んでいいかわからず面食らっている市町村が多い中、いち早くゼロカーボンシティを表明したことは嬉しいニュースです。

宝塚市では、新たに「第 2 次地球温暖化対策実行計画」および「第 2 次宝塚エネルギービジョン」を策定しています。

その内容については市の HP にも掲載されていますので、機会があれば是非、ご覧いただければと思います。詳細な分析を元に「市の取り組み」「市民の取り組み」「事業者の取り組み」として、それぞれの役割や取り組みが具体的に明記されています。

その取り組みや目標が「絵に描いた餅」にならないよう、しっかりと市民がウォッチしていくことも必要ですが、「市民の取り組み」として、私たちが今できることを考え実践していくことが目標達成への近道だということを忘れてはいけません。

（西田 光彦）



◆ 第10回総会報告 ◆

報告が遅くなってしまいましたが、2021年5月22日（土）に「第10回通常総会」を開催しました。正会員76人のところ出席48人（内委任状38人）で、正会員76人の1/2である定足数（38人）を満たして総会が行われ、議事の20年度の活動報告・決算報告・会計監査、21年度の活動計画・予算、いずれも承認を得ました。

今年も治まりを見せないコロナ禍中の総会でしたので、Zoomでのオンライン参加も可能としました。総会へのご参加・会費の振り込み ありがとうございます。

◆ もっと再生可能エネルギーをすすめるために ◆

総会終了後に「もっと再生可能エネルギーをすすめるために」と題した勉強会を開催し18人が参加くださいました。勉強会では、NPO法人 環境エネルギー政策研究所（ISEP）の山下 紀明さんを講師に（1）第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画、（2）これからの地域エネルギー政策、（3）宝塚で市民ができること、という3つのテーマで学びました。他の地域で進められている再生可能エネルギー推進事例の紹介もありましたが、いずれの事例も思った通りの活動には至っていない様子。より多くの市民の方を巻き込むための仕組みをつくり継続していくことが必要なのだと改めて感じた次第です。

（橋本 成隆）



◆ 宝塚すみれ発電所1号のリプレイス ◆

2012年12月に初めての市民発電所として1号を作ったのが昨日のことに思い出されます。たくさんの方々の思いをのせて作り上げた発電所には思い出がいっぱい。経験のない私たちが手作りによる発電所を誕生させたこと。収益事業を行わないNPO法人から事業を引き継ぐ形で株式会社宝塚すみれ発電を立ち上げたこと。そしてその後、REPTから1号の権利移譲を受け、今はすみれ発電がそのほかのすべての発電所も運営管理しています。



1号発電所を作るためにいろいろと工夫し、みんなで話し合いながら作り上げたのですが、20年の継続事業として見てみるとメンテナンスに少々問題がありました。傾斜角度は5度でも問題はあまりなかったのですが、パネル間にメンテナンス用の通路を作っておかなかったので草取りが大変です。防草シートは貼っていますが、風と共に飛んでくる砂塵に雑草の種も交じっています。それらがパネルの間から芽吹き始めると放っておくわけにはいかず、敷石の上でバランスを取りながらしゃがんで草引きをする、非

常に大変な作業となりました。そんな危険を伴う作業とその効率の悪さをどうにかしないといけないというのがここ数年の課題となっていました。

そこで、夏のあつい一日ではありましたがリプレイスのための準備を始めました。今回は架台を立ててパネルを載せるので置いてあるパネルを一旦退かさなくてはなりません。そして古くなった防草シートの上に、日本植生の専門家 H さんの指導を仰ぎながら新しいシートを敷きました。

その後は職人さんたちにお任せして架台組み立てとパネルを載せてリプレイスが終わりました。



太陽光発電による発電所、特に野立てと呼ばれる地面に設置したものはどうしても雑草との闘いになります。除草剤を使わずに重曹による抑草対策を取っている 2 号、3 号発電所も草がなくなるわけではありません。発電所がある限りそういった草対策はずっと続きます。

1 号発電所のスタイルは変わりましたが、私たちがこの発電所を作ろうとしたときの思いは変わりません。パネルは少し古びたものの、十分に力を発揮してくれるでしょう。

電気は自分たちでも作れる。遠くから送電線に乗ってやってくる電気の意味を少しでも多くの人に考えてもらうきっかけになれば嬉しい。存在そのものが地域の分断を生んだ、そんな発電所もあります。抗うばかりではなく、新しい方法の提案、それが市民発電所の意義でもあるかなと、今あらためて思います。

宝塚すみれ発電 井上保子



◆ 宝塚エネルギー2050 ビジョン実現に向けて～再エネ審議会より～ ◆

2019 年度 6 月から「再エネ審議会」で「第 2 次宝塚エネルギー2050 ビジョン」について論議を重ね、本年 7 月市長へ答申し制定に至りました。経過も含めて報告します。

宝塚市は 2012 年に新エネルギー推進課を新設し、審議機関として 2013 年「宝塚市再生可能エネルギー推進審議会（再エネ審議会）」を設置しました。学識経験者、市民団体代表、事業者、公募市

民が会を構成し、事務局は新エネルギー推進課＋ISEP が担当。審議会設立当初より REPT メンバー（'18 年度までは故中川慶子さん）が市民団体代表として参加してきました。

まず、再エネ審議会は「宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例(案)」を作成、パブリックコメントを実施し修正を加えて市長に答申し、その後市議会の議決を経て 2014 年「宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例」は制定されました。

次に、これから宝塚市がどのような方針に基づき再生可能エネルギーを推進していくか、目標と実現のための政策や取組や役割などを論議し、「宝塚エネルギー2050 ビジョン」(案)を練り上げました。この(案)もパブリックコメントを経て市長へ答申し 2015 年策定されました。

「宝塚エネルギー2050 ビジョン」が 2050 年に向けての長期目標として掲げたのは、

- ①家庭用の電力再エネ自給率 50%、熱利用率 50%
- ②家庭、業務、産業用の電力再エネ活用率 100%、熱利用再エネ活用率 100%
- ③多くの市民が交通分野の再エネ利用に多様なアクセスができる

というものです。

この間、新エネルギー推進課は地域エネルギー課と名称を変え、ビジョン実現のため省エネと再エネの普及に努め、市民も協働で取り組んできました。しかし「宝塚エネルギー2050 ビジョン」は市民の認知も不十分で、再エネへの転換はなかなか進んでいないのが現実です。

2015 年制定の「ビジョン」は'20 年度に計画期間が終了するので、'19 年 6 月から「再エネ審議会」ではビジョンの見直し議論を進め、2050 年の長期目標は上記①～③のままで、計画期間の 10 年を踏まえ 2030 年の目標値を新たに検討しました。ビジョンを改定し中間目標を定めることにより再エネ推進に拍車がかかることが期待されています。その議論をしつつ、「宝塚市地球温暖化対策実行計画策定委員会」と合同で、CO2 の削減目標も論議し新たな指標を打ち出しました。

中間目標は、

- ①2030 年度までに家庭用の電気再エネ自給率 20%、熱利用自給率 20%
- ②2030 年度までに家庭・事業・産業用の電気再エネ活用率 40%、熱利用再エネ活用率 40%
- ③2030 年度までに、多くの市民が交通分野の再エネ利用に多様なアクセスができる

という内容で、チャレンジ 30 目標として具体的な対策とその数値目標も決めました。

この目標数値では長期目標の達成が難しくなるためより高い目標値を提案したのですが、実状からかけ離れた数値ではやる気を削ぐという多数の意見で、上記の中間目標に落ち着きました。

それはそれとして、今は数値に拘泥するより行政や市民や事業者が協働で省エネ・再エネ普及にがむしゃらに向かうのがなによりも重要でしょう。

「自分ひとりが頑張っても、しかたない」ではなく、「全ての人にかかわる問題だから、私もできることからやっつけていこう」という考え方へ意識変革が必要です。私たち市民団体の活動が期待されるどころです。

近年の気候変動は地球温暖化の加速を証明しており、老朽原発再稼働の危険も看過できません。早急に再エネ転換を進めないと、子や孫の世代を待たず、今の暮らしが大きな地滑りを起こします。世界ですでに取返しのつかない事態が発生している地域もあります。緊急に行動を！

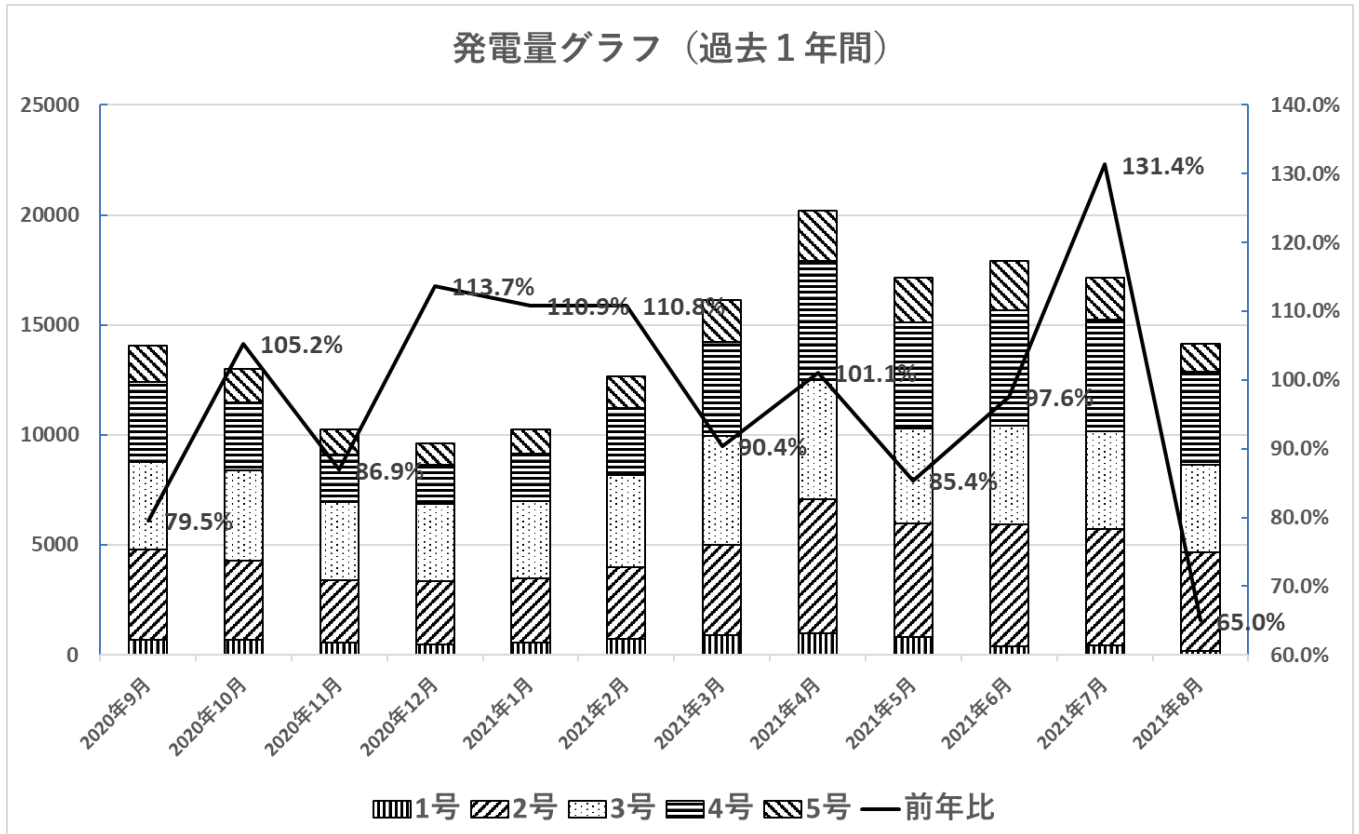
<宝塚市HP ID 検索 1043004 参照ください>

(たなか)



◆ 発電グラフ（2021年8月末日時点） ◆

2021年8月の発電量が対前年比で65,0%と大きく下回っていますが、例年になく雨天・曇天が続き日照量が少なかった影響です。また1号も架台設置工事の影響で発電量が少なくなっています。
(西田 光彦)



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ

(<https://sumire.bona.jp/> 左記 QR コード) にアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。



お知らせ

●「じぶん発電所」所長の皆さんをサポートする企画計画中

一昨年に開催した太陽光パネルによる「じぶん発電所」のセミナーで多数の発電所所長さんが誕生しました。残念ながら、お蔵入りしている、活用できてない、そして新たにセットが欲しいなどの声をお聞きしていますので勉強会等を企画する予定です。どうぞ期待。

もしお困りごとや勉強会への要望がありましたら下記メールアドレスにお送りください。

< REPT のメールアドレス：info@rept.or.jp >